インタビューコーナー

患者さんの要求に応えていくためにも医師会員の皆様のご指導・ご協力をお願いします。

琉球大学医学部 皮膚科教授
上里　博　先生

この度は、本会会報に掲載するためのインタビューをお引き受け下さり、誠にありがとうございます。

沖縄県出身の教授が琉球大学医学部 皮膚科にも誕生したということで、今後、いろいろとご指導・ご協力いただければと考えております。本会広報委員会では、会員の先生方にも是非、ご報告したいと考え、今回、このインタビューを企画させていただきました。

宜しくお願い致します。

Q1. 沖縄県出身の臨床教授として周囲からも大きな期待があると思いますが、先生ご自身はどのようにお考えでしょうか。今後の抱負を含めてお話いただけますでしょうか。

今年4月1日から野中薫雄前教授の後任として、琉球大学皮膚科学教室教授を拝命いたしました。琉球大学皮膚科学教室は、琉球大学保健学部附属病院時代の1973年から故名嘉真武雄教授が20年間、そしてその後1992年4月に赴任された野中薫雄前教授が14年間もかけて築き上げた伝統ある教室です。両教授は研究そして臨床的知識・技術について卓越した深い御見識がありました。小生は幸運にも両教授にご指導を受けましたので、さらにそれを発展させ、沖縄県で皮膚疾患に悩んでおられる患者さんの治療へのお手伝いができればと考えております。

P R O F I L E

昭和53年	群馬大学医学部卒業　皮膚科入局
昭和54年	栃木県済生会宇都宮病院　皮膚科
	獨協医科大学　皮膚科
昭和57年	沖縄県立中部病院　皮膚科
	琉球大学医学部附属病院　皮膚科
昭和62年	那覇市立病院　皮膚科
平成 6 年	琉球大学医学部附属病院　皮膚科講師
平成12年	琉球大学医学部　皮膚科助教授
平成13年	University of California, San Francisco
	(CVI research assistant)
	文部科学省長期在外研究員
平成18年	琉球大学医学部　皮膚科教授

Q2. 沖縄県医師会との今後の関わり方について、何かご意見・ご要望などをお聞かせいただけますか。

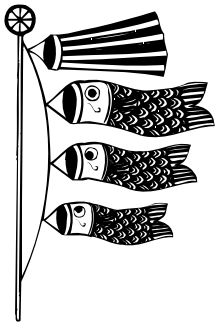
インターネットなどが普及し、高度な情報社会になった現在の医療事情は、一施設のみで患者さんへの要求に応えることが困難な状況にあると思います。それらに対応するため、小生を含め琉球大学皮膚科学教室の医局員には沖縄県医師会の御先輩の先生方をはじめ多くの先生方のご協力とご指導が必要不可欠です。皮膚科医局員も皆様のご期待に応えられますよう頑張りたいと思いますので、どうか今後ともご指導下さいますようよろしくお願い申し上げます。

Q3. 現在、新臨床研修制度が始まって2年が経過しましたが、琉球大学医学部附属病院ではいかがでしょうか。沖縄県で医師を育成していくことは非常に大変だと思うのですが、現在、ご苦労されている点なども含めて先生のお考えをお聞かせいただけますか。

新臨床研修制度が琉球大学医学部附属病院全体にどのように影響を与えているかどうかについては、小生まだ十分に把握しておりませんので正確なお答えができません。皮膚科については、次のような印象を持っております。いわゆる皮膚科学はマイナーな臨床科と従来から言われています。しかし、小生を含め皮膚科医自身は皮膚科を一般に流布しているようなマイナーな科とは思っておりません。そのような誤解（？）もあるせいでしょうか、あるいは新臨床研修制度の影響でしょうか、以前に比べて、入局される新人の先生が非常に少なくなった印象があります。現在皮膚科学教室員のマンパワー不足が生じているため、診療などの医療業務や教育・研究などに多くの時間が費やされ、琉球大学皮膚科学教室から医療の最前線でご活躍されておられる一般病院や開業医の先生方への応援が困難な状況になりつつあります。どうかそのことをご理解いただけますようお願い申し上げます。

Q4. 先生の趣味や座右の銘などをお聞かせいただけますか。

小生、まだ若輩者ですので「座右の銘」はありません。これから多くのことを勉強していかなければと常々思っております。趣味はこれから持ちたいと思っております。

本日は、お忙しい中、インタビューにご協力いただきまして誠にありがとうございました。

インタビューアー：広報委員　照屋 勉